

雜 報

■ 母 校 近 況

- ◇古谷内田兩講師教授に昇任。古谷教授は工業化學部に内田教授は製絲部に研究中。
- ◇川瀬教授は東京帝大農學部教授を兼任せられ當分の中毎年十月より三月までは駒場に四月より九月迄は上田に教鞭をとられ十月以後も毎月一回來田の筈なり。
- ◇遠藤教授はワシントンに六月初旬より約一ヶ月滞在主として植物病理學を研究せられ七月こゝを去り諸方の視察を終へニューヨークに約一週間費して八月パリに渡られたり。こゝでは

Station centrale de phytopathologie
et de parasitologie vegetales

にて研究を続けられる筈。最近の通信によれば『佛蘭西は酒と女と美術の國で新開地の米國とは比較にならぬ程爛熟しきつて居ります云々』定めし多くの思出を残される事ならん。宛名は

Monsieur le prof. Y. Yendo,
A P Ambassade du Japon, Paris, France.

- ◇森山助教は本年四月より東北帝大工學部に約一ケ年の豫定にて研究中
- ◇阿形教授は近く歐米留學の途に上られる筈。
- ◇長らく教務課を煩はした卒業生就職に關する事務一切を此度各部にて分掌する事になれり
- ◇去る六月本校會計課雇に就任せられし田玉龜太郎氏に對し同窓會の事務を囑託し目下養蠶事務室にて勤務中。
- ◇養蠶部には多年の願望成就して冷蔵庫竣工。アムモニア式にて製氷装置附。一坪究の室五室といふ鐵筋コンクリートの可愛らしきもの。又第一號蠶室二階は各室共温湯暖房保温装置完成。明春の蠶は嘸氣持よく大きくなる事であらう。
- ◇製絲部では同部考案の專賣特許移開式自動拔繭機出來上り伊太利直繰機と共に異彩を放つて居る。
- ◇尙製絲部に本部を置く北信の工場官廳及び學校聯合の『製絲學研究會』は四月以來毎月一回(第一土曜會場は主として本校)例会を開き毎回出席者數十名斯界に大なる貢獻をなしつつある。
- ◇紡績部はメリヤス及靴下製造機械を据附て盛に製品を出して居る。殊に靴下は評判がよい。學校土産の石鹼と眞綿にこれ加つたのは甚だ喜ばしい次第である。

消 息

◇朝倉昇(蠶一)柴田末治(蠶九)の兩君には京都帝大經濟學部在學中の處今回目出度く文官高等試驗行政科に登梯。

會 合

◇十月十九日母校陸上運動會後化學教室に於て協議會を開催し本會群馬支部千曲會及愛知在住同窓生の提出せる二案に就き協議する所あり。其具体案の研究に就て本會幹事會に一任する事となり散會後明倫堂に於て懇親會を開く。當日來會者四十六名に達し盛會を極む。尙其の具体案成立の後は全會員に通報の筈なり。

寄 書

◇ミス博士に別れを告げて 北米ワシントン市にて 遠藤保太郎

プムタヌスやメリケンバナの涼しい並木の蔭を通り抜けて始めて農務省内植物病理研究室を訪問したのは六月十八日の朝であつた。先ずミス博士の室を叩いたが博士は未だ見えない。そこのタイピストが二三日前に届いたと云つて渡して呉れた一通の手紙はマサソンのウイシコンシン大學で御世話になつたジョンス教授からのものであつた。明るい廊下の窓際で之を開いて見て居ると、ヤがて白髪白髯の稍小柄の、質素な麻地の夏服を着けた老紳士がやつて來られて『私がエルウエン、ミスだ、さあ來給へ』と愛憎よく自分の室に案内し、訪問者名簿に署名を求められ、それから私を連れて實驗室を巡り助手の人々に紹介されたが其の大多數が婦人であるには一驚を喫した。此等の助手の人々は皆夫々特殊の役目を負擔して居り、或者は培養基調製専門、或者は細菌の染色専門、或者は寫眞及び描畫専門と云ふ風に分れて居る。而して各々其専門の方面を徹底的に研究して居るのであるから此研究室から發表される報文の非常に卓越せる事は決して偶然でないと言はれる。博士は又實驗裝置の説明を懇ろに與へられた。現に博士の研究して居らるゝ事は植物細胞液の酸度と菌癭形成との關係であつて電流裝置による酸度計を用ひて精密な實驗が行はれつゝある。菌癭の事は博士が二十年も以前から着手せられ既に立派の報文十數冊を出版してあるが猶倦まず撓まず深く同じ物に就て研究を續けて居られる。尙此實驗室を廻つて特に私の目を引いたものが三つある。第一は壁上高く孔子と其弟子との問答の一節『眞理は永久不變なり云々』の句が英譯で掲げてあつたこと、第二は細菌學の泰斗バスター博士の鑄像、第三は鞭毛染色細菌の鮮かな引伸ばし寫眞。ミス博士は齡既に六十を超えて居らるゝと察するが實に豐饒なるもので、いつもランチ抜きの二食主義、明せかへる様な暑い日でも一日立ち續けて餘念なく實驗を進めて居られる。而して助手達が四時半に切り上げてサツサと自動車で歸つて行つても博士は實驗の都合によつては一人居残つて跡始末をつけて後ボツボツ歩いて歸られる。私は此の實驗室で懇篤なる指導と親切なる待遇とを與へられて丁度一ヶ月間桑の細菌病に

つき實驗に従事するの喜びを得た。博士はも少し留つては如何など申されたが旅程を變更し難き事情有つて近く渡歐することゝした。

あく迄も親切な博士は實驗繼續の便宜にとて佛伊の學者五氏へ宛て紹介状を書いて與へられた。而して『君は美術に興味をもつて居るか。では見せたいものがあるから今日自分の宅へ來給へ』と云つて歸りに助手のミス・マカロツクから彼女の自動車をドライブして貰つて案内せられた。其途中カーネギー研究所の前あたりで黒奴の小供が西瓜を賣つて居たのを見つけて博士は自動車を止めさせ三貫目もある様な大西瓜を一個買込まれた。

博士の住宅は物靜かな小高い處にあつて關玄前に銀杏の木が一本立つて居る。其左隣りには新築中のアパートメントがある。始め其アパートメントの方へ入つて博士はミス・マカロツクに此室は見晴らしが良いから借りたら如何かなど話された。博士の家へ行つてからは家中隅なく案内して世界各國から蒐められた珍しい陶製壺を幾十となく手渡しして見せられた。又高さ二尺位の唐金の大佛を指して『これは私が最も好きなものの一つである』などと云つて聞かされた。それから英佛獨ラテンの文學書がギツシリ詰つて居る書齋を見せて『宅にはザエュニスに関するものは一冊も無い』と云つて微笑された。

彼是して居る中、時も過ぎ、辭して歸らうと思つて居る矢先、食堂から銅羅の音が響いて來た。博士は『何も無いが晚餐を』と云つて食堂へ案内し、茲で夫人に紹介された食卓は博士夫妻とミス・マカロツクと私との四人で圍まれ、自ら心を落着かせる蠟燭の焰の許に夫人御手製の料理の品々を味はつた時の感想は嬉しいものである。デザートには例の大西瓜を博士自ら斷ち割つて各々に頒たれたが併し四人では食ひ切れず、終に眞中の種子の無い所だけをナイフで割りとつて『これは君にやらう』と云つて出された時は皆が笑つた。

翌日博士は『此前見せて貰つた君の家族の寫眞を夫人にも見せたいから』と云つて私が去年の暮出發前に妻及び四人の子供と共に撮つたものを持ち歸られた。

グードバイの日私は一ヶ月間肘を寄せた實驗机の上に優美な伊太利の手漉紙で編まれたミス博士自著の詩集 For her friends and mine. の置かれてあるのを見た。これは博士と亡き先夫人との間に産れた愛の結晶である。私はこれを何よりの記念品として物憂き旅路に携帯するであらう。(大正十三年七月二十日夜)

■ 案 内

◇ 農業科教員無試験檢定

大正十三年三月廿四日 文部省告示第百五十二號ヲ以テ本省告示第三十號ニヨル教員無試験檢定ニ關スル指定學校中ニ本校養蠶科卒業者ヲ加ヘラレ本校第一回卒業者ヨリ師範學校、中學校及高等女學校ノ農業科教員トシテ無試験檢定ヲ受クルノ資格ヲ附與セラ

し左記申請ノ履行ハヨリ申請無異認察定當員ノ發付ノ結果、免許狀ヲ下付セラル、コト、ナレバ、同ツキ其ノ申請ノ詳細ノ發付ニ關スル規程(昭和十一年十一月廿六日又臨時令第百十二號)ニ依リテハタルニ依リテ認メ若シ無異ト記シテハ次に示シ。

- (一) 先ツ無試験檢定ヲ受ケムトスル者ハ左記第一號書式ノ願書ニ左ノ書類ヲ添付シ地方廳又ハ卒業學校ヲ經由シテ出願スルモノトス
 - 一、第二號書式ノ履歷書、及受験資格ニ關スル學校卒業證書ノ寫
 - 二、第三號書式ノ當該學校長ノ卒業證明書
 - 三、第七號書式ノ學校醫若クハ醫師法ニ依ル醫師ノ身体検査書
 - 四、地方長官又ハ當該學校長ハ本人ノ性行ニ就キ意見ヲ具申スルコトヲ要ス
 - 五、當該學校長宛テ卒業證明書下附願ヲ提出スベキモノトス(様式附記)

第一號様式(用紙美濃紙)

	教員檢定願	
④ 金五圓 印 紙入	本籍地	
	現住所	
	受験資格	上田蠶絲專門學校養蠶科卒業
	族稱	(華士族ニ限リ記載ス)
農業科	氏	名(氏名ノ漢字ニ振假名ヲツケルコト)
		年月日生

私儀師範學校、中學校、高等女學校教員志願ニ付簡訊學科目ニ就キ無試験檢定相受度書類ヲ具シ此段相願候也

右
年 月 日 氏 名 ④

第二號書式(用紙美濃紙)

履 歷 書

氏 名
年 月 日 生

學 業

- 一、年月日 何學校何科何學年ニ入學、年月日卒業
- 一、年月日 何教員免許狀受領

業 務

- 一、年月日 何官拜命若ハ何業ニ従事、年月日事由ニ依リ退官若ハ廢業

賞 賜

- 一、年月日 何事由ニ依リ何賞若ハ何爵ヲ受ケ

身上ニ關スル事項

一、年月日 何事由ニ依リ何ト改氏名等

以上
右

年 月 日 氏 名 ⑩

(記載注意)

- 一、學業ハ受檢資格ニ關係アル事由ニ限リ記載スルコト
- 二、教員免許狀ハ別紙ニ其寫ヲ添付スルコト
- 三、業務ハ現在若クハ最近ノ經歷ニ限リ記載スルコト
- 四、身上ニ關スル事項ハ族稱氏名ノ變更等身上ノ異動ヲ詳記スルコト

第三號様式

卒業證明書ハ當該校長ニ對シ左記下附願ヲ差出スコトニヨリテ同校ヨリ下付セラル、モノナレバ其ノ書式ヲ略ス

(附) 卒業證明書下附願 (用紙半紙)

本籍府縣名

大正 年 卒業 氏 名

農業教員無試験檢定出願ノ爲メ必要有之候間卒業證明書御下附相成相度此段願候也

右

年 月 日 氏 名 ⑩

上田蠶絲專門學校長 針塚長太郎殿

第七號書式(用紙美濃紙)

族 籍

何

生 年 月 日 某

一、体 格

一、身 長

一、体 重

一、胸 圍

一、中心視力

色 盲

眠 病

一、聽 力

耳 疾

一、呼 吸 器

一、神 經 系

一、皮 膚

一、言 語

一、既往現在ノ疾病又ハ畸形
右検査候處相違無之候也

年 月 日 検査

住 所

何 校 醫 監 (學 校 醫 監 ニ ア ラ ザ ル 者 ハ 學 位 若 々)
其 ノ 資 格 フ 記 載 ス ベ シ

来 印

(二) 前記ノ出願ヲナスニ當リ特ニ注意スベキ事項

- イ、卒業證明書下附願ニ前各號ノ書類ヲ添ヘテ母校教務課ニ提出スコト
- ロ、無試験檢定料トシテ金五圓ノ收入印紙ヲ貼他シ消印ヲナスコト
- ハ、前記書類ノ送付ハ總テ書留郵便トナスコト

大正十二年度決算報告

收 入 之 部

前年度繰越金	293,955
同窓會費	1,052,000
入會金 (新卒業生)	78,000
預金利子	9,050
基本金利子流用	250,000
雑收入 (震災見舞殘金)	7,520
合 計	1,690,525

支 出 之 部

同窓會報第十第十一號代	1,346,640
同窓會報第十第十一號送料	49,380
同窓會總會通知其他通信費	35,280
會員異動通知費	11,140
同窓會費集金料	43,480
震災見舞金 (内藤小澤兩氏)	10,000
震災見舞狀費	4,750
故細川上田市長及官舎炊事婦香料	15,000
會計和田氏及小使ヘノ謝禮	10,000
一時借入金利子	12,000

新卒業生下ノ親臨會補助費	23.500
故關川 岡田 田村 村瀬 酒井 松久君	24.650
死亡通知費	100.000
基本金へ	
役員會雜費	4.040
殘 金	665
合 計	1.690 525

拾貳年度基本金收支報告

摘 要	收 入	支 出	現 在 高
前年度繰越高	2,586.79		
同上拾貳年度利子	204.80		
拾貳年度積立金	100.00		
拾貳年度通常會計へ支出		250.00	
收得利子ノ所得税		9.36	
差引現在高			2632.23

故酒井利夫君弔慰金

○金 五 圓	堤	支君			
○金 貳 圓	田 中	真 雄君			
○金 壹 圓 宛	好 土	泰 造君	大根田	正一郎君	倉 橋 琢 而君
堀 忠太郎君	清 水	重 雄君	田 中	秀 吉君	榑 原 春 彦君
中 村 康四郎君	飯 島	貞 雄君	柴 田	末 治君	勝 又 藤 夫君
小田切 四 郎君	上 林	多兵衛君	門 平	潤一郎君	服 部 虎 雄君
尾 藤 省 三君	四 方	定 雄君			
○金 五 十 錢 宛	栗 栖	忠 士君	杉 木	政 義君	清 水 輝 雄君
大 場 重 藏君	大 矢	健次郎君	堀 田	啓 春君	中 田 太 郎君
○計 金	金貳拾七圓五拾錢		遺 族 贈 呈		

故雨宮章君弔慰金

○金 貳 圓 宛	宇 田	虎一郎君	佐 藤 儀 助君	門 田 秀太郎君
○金 壹圓五拾錢	林	十 郎君		
○金 壹 圓 宛	依 田	寛之介君	小 松 忠一郎君	米 田 俊 雄君
門 平 潤一郎君	倉 持	高之助君	野 村 又 治君	村 島 徹君

倉橋 琢 而君	竹 內 健 二君	清 水 重 雄君	小山田 道 男君
蒲 生 勇 一君	九合 喜右衛門君	長谷川 正 雄君	田 角 又十郎君
堀 忠太郎君	山 木 三六郎君	北 澤 周 一君	尾 藤 省 三君
中 島 茂君			
○金 五 拾 錢 宛	栗 栖 忠 士君	青 木 孝 勇君	清 水 衛 敏君
池 田 正五郎君	佐 藤 愛 之君	柳 原 春 彦君	林 太 郎君
○金 三 拾 錢	荻 野 土 風君		
合 計	金 參 拾 壹 圓 參 拾 錢 也		
	內 金 四 圓 六 十 一 錢	通 信 費	
差引計	金 貳 拾 六 圓 六 拾 九 錢 也	遺 族 贈 呈	

故岡田勝宏君弔慰金

○金 貳 圓 宛	中 村 龜 四郎君	好 土 泰 造君	小宮山 太 助君
神 原 春 彦君			
○金 壹 圓 宛	奥 村 好 一君	北 村 重 郎君	本 間 久君
中 島 茂 司君	黒 田 誠 一君	根 岸 丑之輔君	小笠原 喜代三君
堀 田 啓 杏君	淺 井 春 雄君	坂 本 好 土君	岩 崎 登君
○金 五 拾 錢	荻 野 上 風君		
合 計	金 拾 九 圓 五 拾 錢 也		
	內 金 四 圓 五 拾 八 錢 也	通 信 費	
差引合計	金 拾 四 圓 九 拾 貳 錢 也		

故松澤德榮君弔慰金

○金 五 圓	飯 島 正 胤君		
○金 參 圓 宛	田 口 敏 夫君	原 田 兵 衛君	市 川 恕 平君
小 山 庸 人君	唐 澤 正 平君	牧 野 金次郎君	
○金 貳 圓 宛	太 田 清 藏君	松 村 季 美君	鶴 田 定 平君
篠 田 平三郎君	高 須 兵 司君	倉 澤 美 德君	蒲 生 俊 興君
絹 村 貢君	佐 谷 戶 健次郎君	清 宮 保君	遠 藤 文 平君
篠 原 善 次君	三 輪 輔君	廣 瀬 清四郎君	湯 川 秀 夫君
菅 澤 隆 三君	丸 山 俊 一君	向 山 隆 福君	矢 澤 茂 登一君
○金 壹 圓 五 拾 錢 宛	清 水 達太郎君	鈴 木 誠 一君	小 澄 晋君
今 井 衷君			
○金 壹 圓 宛	大 箸 政 平君	岸 勝 彌君	酒 井 末 吉君

小林國造君	小林茂樹君	水谷鄉一君	福谷朝太郎君
小笠原安重君	磯野良知君	上原清夫君	高島秀男君
朝倉昇君	折茂正太郎君	岡部彌平君	工藤一二三君
高田茂重郎君	佐々木峰二君	田中福雄君	大町省三君
清水二郎君	田附卯一郎君	栗林悅君	芝荒雄君
原亮敏君	小島五郎君	小川保君	小山健次郎君
森千城君	川合軍之助君	高橋善吾君	齋藤格次君
濱井壽夫君	兒玉忠雄君	花岡作彌君	松野正一君
○金五拾錢宛	見波忍君	坂田榮雄君	須田今三君
加美好男君			

令計 金壹百四圓也

内 金五圓六錢也 通信費

差引合計 金九拾八圓九拾四錢也 遺族贈呈